

# 京都地下鉄整備株式会社

## 第1 法人の概要

### 1 代表者

代表取締役 中山誠昇

### 2 所在地

京都市山科区安朱中小路町15番地の4

### 3 電話番号

075-502-9001

### 4 ホームページアドレス

<http://kyoto-ss.co.jp/>

### 5 設立年月日

昭和56年4月20日

### 6 資本金

40,000千円（うち本市出資額22,000千円，出資率55.0%）

### 7 事業目的

- (1) 鉄道車両の整備
- (2) 鉄道施設の整備
- (3) 電気設備の整備
- (4) 不動産の運営及び管理

### 8 業務内容

- (1) 高速鉄道電力・電気設備点検の監理
- (2) 高速鉄道建築・機械設備等の監理
- (3) 高速鉄道車両の検査・整備等の監理
- (4) 高速鉄道の駅電気設備の監理
- (5) 北大路バスターミナル等の電気・機械設備等の監理

### 9 所管部局

交通局高速鉄道部営業課（TEL075-863-5213）

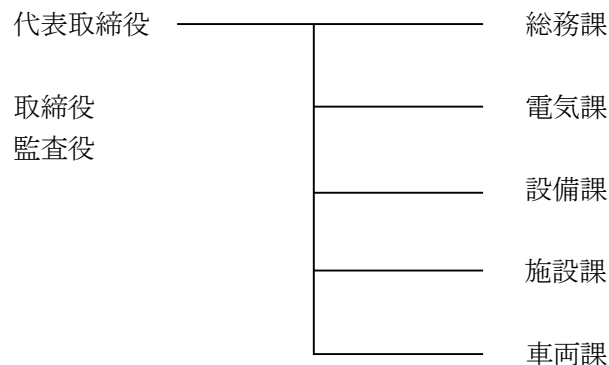
### 10 役員名等

- (1) 代表取締役社長  
中山誠昇
- (2) 取締役  
大塚健志（交通局企画総務部長），土田稔（交通局高速鉄道部長）
- (3) 監査役  
四方宏治

### 11 常勤職員数

41人（うち本市派遣職員0人）

### 12 組織機構



## 第2 経営状況

### 1 令和元年度決算

#### (1) 事業報告

##### ア 事業の実施状況

###### (ア) 高速鉄道の電力関係

烏丸線の国際会館・竹田間 13.7 キロメートル 15 駅と東西線の六地藏・太秦天神川間 17.5 キロメートル 17 駅，全線 31.2 キロメートル 32 駅の電気室，変電所，電車線路，電力線路等について，整備・点検に係る監理業務及び修繕業務を行った。

###### (イ) 高速鉄道の車両関係

烏丸線車両 120 両，東西線車両 102 両を対象に，所定の定期検査等の作業に係る監理業務を行った。

###### (ウ) 高速鉄道の駅施設関係

建築・機械・昇降機・駅電気設備等の定期検査に係る監理業務や修繕業務を行った。

##### イ 当期の損益

当期の決算においては，売上高及び売上原価が共に減少しているが，その要因としては，平成 30 年度においては，自然災害等による建築設備の修繕をはじめ各設備での修繕が増加していたが，令和元年度はこれらの修繕が前年度に比べ減少するとともに，東西線車両の全般・重要部検査編成数が減少したことによるものである。

一方で，前年度に比べ経費等の支出が減少したことにより，結果的に当期純利益がやや増加したものである。

##### ウ 今後の課題

平成 24 年度以降（平成 27 年度\*を除く）赤字決算が続く状況となっていたが，近年は収支均衡へ向けて努めてきたこともあり，当期は 2 年連続となる黒字決算を実現できた。今後も安定的な経営を目指していく。

また，質の高い監理業務の遂行には，経験豊富な技術社員の存在が必須条件であることから，優れた人材の安定的な確保に努める。

※ 平成 27 年度は，単発的な受託業務による増収や欠員による人件費の減少等により黒字決算となった

## (2) 財務諸表

## 貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	[218,268]	流動負債	[21,092]
現金・預金	122,495	未払金	4,606
前払金	3,108	未払法人税等	200
未収金	72,665	未払消費税等	5,586
有価証券	20,000	預り金	892
		賞与引当金	9,807
固定資産	[527]		
(有形固定資産)	(108)	固定負債	[660]
建物附属設備	0	退職給付引当金	660
工具器具備品	108		
(無形固定資産)	(419)	負債合計	21,752
電話加入権	419	純資産の部	金 額
		株主資本	[197,043]
		資本金	[40,000]
		利益剰余金	[185,843]
		利益準備金	10,000
		その他利益剰余金	(175,843)
		事業積立金	100,000
		別途積立金	50,000
		繰越利益剰余金	25,843
		自己株式	[△28,800]
		自己株式	△28,800
		純資産合計	197,043
資産合計	218,794	負債及び純資産合計	218,794

損益計算書

平成31年4月1日～令和2年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		235,870
売上原価		199,265
売上総利益		36,605
販売費及び一般管理費		34,539
営業利益		2,065
営業外収益		
受取利息	43	
雑収入	100	143
営業外費用		0
経常利益		2,208
特別利益		0
特別損失		0
税引前当期純利益		2,208
法人税, 住民税及び事業税		207
当期純利益		2,002

株主資本等変動計算書

平成31年4月1日～令和2年3月31日

(単位：千円)

	株主資本						純資産 合計	
	資本金	利益剰余金				自己株式		株主資本 合計
		利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余 金合計			
			別途積立 金等	繰越利益 剰余金				
当期首残高	40,000	10,000	150,000	23,841	183,841	△28,800	195,041	195,041
当期変動額								
当期純利益				2,002	2,002		2,002	2,002
自己株式の取得								
当期変動額合計	0	0	0	2,002	2,002	0	2,002	2,002
当期末残高	40,000	10,000	150,000	25,843	185,843	△28,800	197,043	197,043

2 令和2年度事業計画

(1) 事業計画の概要

ア 高速鉄道の電力設備監理業務

- (ア) 烏丸線：変電所 (4 箇所), 駅電気室等 (19 箇所), 電車線路等 (13.7 キロメートル)
- (イ) 東西線：変電所 (5 箇所), 駅電気室等 (21 箇所), 電車線路等 (17.5 キロメートル)

イ 高速鉄道の電気室・変電所日常点検業務

- (ア) 烏丸線：変電所 (4 箇所), 駅電気室等 (19 箇所)
- (イ) 東西線：変電所 (5 箇所), 駅電気室等 (21 箇所)

ウ 昇降機設備監理業務

- (ア) 烏丸線 15 駅 } 各駅駅舎等設置昇降機設備の保守業務の
- (イ) 東西線 17 駅 } 調整・監理等

エ 高速鉄道の駅電気設備監理業務

- (ア) 烏丸線 15 駅 } 各駅消防設備保守点検監理業務及び  
 (イ) 東西線 17 駅 } 駅務機器保守点検監理業務等

オ 高速鉄道の建築・機械設備等監理業務

- (ア) 烏丸線 15 駅 } 各駅高速鉄道施設の建物・機械設備等の統括監理  
 (イ) 東西線 17 駅 }

カ 高速車両保守及び作業監理業務

- (ア) 烏丸線：20 編成（120 両）  
 (イ) 東西線：17 編成（102 両）

(2) 予算

予定損益計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	232,800
売上原価	198,700
売上総利益	34,100
販売費及び一般管理費	32,900
営業利益	1,200
営業外収益	
受取利息等	47
経常利益	1,247
税引前当期純利益	1,247
法人税，住民税及び事業税	246
当期純利益	1,001

(参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (予算)
損益計算書	売上高	233,875	246,852	235,870	232,800
	経常利益	△382	1,812	2,208	1,247
	当期純利益	△562	1,632	2,002	1,001
	減価償却前利益	△486	1,680	2,038	
貸借対照表	総資産	219,256	217,914	218,794	
	総負債	25,847	22,873	21,752	
	純資産	193,409	195,041	197,043	

(参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (予算)
委託料	高速鉄道等の施設，車両の点検整備等の監理	251,246	265,261	255,657	

### 第3 経営評価結果

#### 1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<ul style="list-style-type: none"><li>令和元年度決算においては、前年度決算と比較し、自然災害等による建築設備の修繕をはじめ各設備での修繕が減少するとともに、東西線車両の全般・重要部検査編成数が減少したことから、売上高及び売上原価が共に減少している。一方で、前年度に比べ経費等の支出が減少したことにより、当期純利益がやや増加し、前年度に引き続き黒字決算となっており、収支均衡へ向けた取組は進んでいる。</li></ul>
事業面	<ul style="list-style-type: none"><li>令和元年度は、高速鉄道の電力関係、車両関係、駅施設関係の点検、整備に係る監理業務、修繕業務に取り組んでいただいております。本市の高速鉄道事業の安全対策に貢献していただいた。</li></ul>

#### 2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	<ul style="list-style-type: none"><li>売上高は減少したものの、経費の抑制により、昨年度を上回る当期純利益を確保し、2年連続の黒字を達成した。引き続き黒字を維持できるよう取り組んでほしい。</li></ul>
事業面	<ul style="list-style-type: none"><li>鉄道の保守業務に関する専門的な知識や技術を有する経験豊富な人材の確保、育成に努め、引き続き市営地下鉄の安全な運行の維持に寄与してほしい。</li></ul>